

● 電動生ごみ処理機を使ってみよう! [バイオ型]

さまざまな生ごみ堆肥化方法の紹介

すこし大きめのごみ箱のような形で、ベランダ、物置、車庫などに置いて使います。微生物の活動により生ごみを分解するもので、ヒーターで保温したり、かくはん装置で通気性を良くするなど、微生物が活動しやすい環境を維持する仕組みが工夫されています。

また、最近は脱臭装置がついていて屋内で使用できるものも販売されています。

!こんな方に向いています

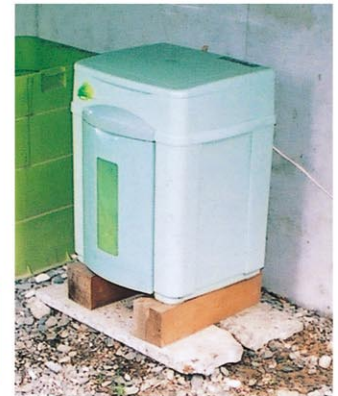
- ひさしのあるベランダ、物置、車庫などで電源を確保できる場所がある。
- 家庭菜園をしているので堆肥が欲しい。

■性能

サイズ	50cm(幅)×50cm(奥行)×60cm(高さ)程度
設置場所	軒下、ベランダ、車庫、物置など直接雨や雪のあたらないところ。 (それほど大きくはないが、分解時に臭いが出るため、通気性のよい場所で使う必要がある。)
処理能力	1日 1.0~1.5kg
減容率	10分の1~20分の1(容積比)
電気代	500~1,000円/月(冬期間 1,000~1,500円/月)
メンテナンス	3~6カ月毎に微生物の入った専用の基材を交換する。

■使い方

- ① 処理機に、微生物の入った基材を入れる。(それぞれの処理機に専用の基材が用意されています。)
- ② 生ごみの水分をよく切ってから処理機に投入する。
- ③ 蓋を閉めると数分間かくはんを開始し、その後、30分~1時間に数分間かくはんして分解を進める。
- ④ 生ごみは、随時投入可能で、3~6カ月間そのまま使うことができる。
- ⑤ 処理物を取り出し、微生物の入った基材を入れ替える。(処理機によって、全部を一度に入れ替えるものと、少しずつ入れ替えるものがあります。)



💡ポイント

- 生ごみを分解する原理は、コンポスターやダンボール箱を使った方法と同じ。
- 処理機の能力以上の生ごみを投入すると、臭い発生の原因となるので注意。

使用者の方からのアドバイス

- 軒下、物置、車庫など雨、雪をしのげる場所に設置すると、投入が楽で、電気代の節約にもなります。また、投入する量や物によっては、臭いが出るので、換気の良いところに設置したいですね。
- 長ねぎやバナナの皮など長いものをそのまま入れると、かくはん装置にからまってしまいますので、短くきざんでから入れるようにしています。

●簡易処理機を使う方法

微生物の活動を利用する処理では、空気を取り入れるためのかくはんがかかせません。このかくはんを手動で行うタイプの処理機があります。ハンドルを回したり、ひもを上げ下げするだけで良く、「電動処理機は便利だけど、電気代が気になる。」という方におすすめです。保温だけに電気を使う処理機もあります。



手動かくはんハンドル付



ひもを上げ下げするだけでかくはんできる